

◆最優秀賞◆

お父さんからおしえてもらったこと

佐渡市立新穂小学校 一年 本田 恵万

「おいしいか、まだまだやくでえ。」

ぼくのお父さんは、大きかしゅっしんで、たこやきをつくるのがとくいだ。どんなにいそがしくても、ぼくたちのためにつくってくれる。中がとろっとして、そとはかりっとしたお父さんのたこやき。ぼくは、せかい一おいしいとおもうよ。

二年、お父さんはひがし日本大しんさいの一月ごとに、しごとで石のまきにお手伝いにいった。つなみで、つかえなくなったガスきぐのと리카えをしておふろに入れるようにしたそうだ。

「ひさいちは、テレビで見るよりしようげきが大きかったわ。もつとじぶんに行きかたはいいやろか、とおもったよ。」

と、げん気のないこえでいった。ぼくはお父さんから、せいかつにこまっている人やかぞくをなくしてかなしんでいる人がたくさんいることをおしえてもらったよ。

それから、ぼくの学校ではお父さんたちがはなしあつて、空きビンかいしゅうをすることになった。もちろん、ぼくはお父さん

といっしょに、空きビンをあつめにきんじよのいえをまわった。

はじめてだったので、どきどきしたよ。でも、とつても気もちよかった。たくさんのビンがあつまったころには、二人ともあせでびっしりになっていた。

「お父さん、いっぱいあつまったね。」

「おつかれさん、すこしでもやくに立つとええな。」

お父さんが、にこにこしていつてくれた。

あつまったお金で、ひさいちの小学校にフリスビーや竹うまをおくることができた。よろこんでもらえるといいな。ぼくは、「じぶんに行きかたはないんだろうか」と、いつもみんなをしんばいしてくれるお父さんがじまだよ。ありがとう！お父さん。